第7回 JavaScript の進んだプログラミング

今回の演習の目的はJavaScriptにおける変数の取り扱いを少し詳しく学ぶ。今回の課題はJavaScriptの文法に関するものなので、今までに組んだものを今回の方法で書き直し、以前の記述方法との違いを考察として加えること。

- var と let による変数宣言の違い
- JavaScript における変数のスコープルールの確認
- 関数の引数の取り扱い
- クロージャの理解と使用する利点
- 配列のメソッドを利用してプログラムを読みやすくする。

課題に(必須)と書かれたものを最低行うこと。それ以外の課題はいくつか選択してよい。

課題 1 (変数のスコープ) 演習のビデオ1を見て次の問いに答えよ。

1. (必須)var と let よる変数の宣言の違いを次の表にまとめよ。 2 つ目以降の項目は各自考えよ。

項目	var	let
同じブロックで		
同じ変数を2回		
宣言		

2. (必須) 関数の引数として数や配列オブジェクトを渡したとき、それらの仮引数の変数を書き換えるサンプルを各自作成し、注意点をまとめよ。

3. JavaScript の変数のスコープルールや関数の引数の仕様を他の言語と比較してその特徴を述べよ。

課題 2 (クロージャ) 演習のビデオ 2 を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須) クロージャ版のアニメーションサイクロイドを実行中に、コンソールで7行目や8行目で定義してある変数を参照できるか確認せよ。
- 2. (必須) グローバル変数減少利点は何か?
 - •
 - •
 - •
- 3. 関数を定義してその場で実行することの利点は何か。
- 4. (必須) 今まで作成したものからグローバル変数を減らしたものを作成せよ。

課題 3 (配列のメソッド) 演習のビデオ3を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須)要素の値が整数である配列に対して、次のことを行うプログラムを作成せよ。
 - 各要素を5で割った余りを値に持つ新しい配列
 - 奇数である要素だけ選び出す
- 2. (必須) 配列のメソッドをいくつか利用するサンプルプログラムと用いないで同様の処理を行うものを作成し、両者の違いを比較検討せよ。たとえば、次のようなものが考えられる。
 - 大きさが10の配列で1から10の要素を順に持つ配列を作成する
 - ラジオボタンまたはプルダウンメニューの作成
- 3. 今までに作成したプログラムで配列のメソッドを使うものに書き直せ。

情報メディア専門ユニットI(演習)

第7回(6/6)ノートの内容

項目の最後の文字は次に示す項目の評価である。 \mathbf{y} (プログラム等のリスト)、説 (プログラム説明が手書きまたは印刷である)、 \mathbf{Z} (結果のキャプチャ画面)、 \mathbf{Z} (考察が手書きまたは印刷である) を意味し、次の記号で評価を示す。 \mathbf{Z} (不備またはない)、 \mathbf{Z} (もう一息)、 \mathbf{Z} (良い)、 \mathbf{Z} (し、)、 \mathbf{Z} (し、)

評価項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
課題 1-1 (10%)	□var と let による変数の宣 言の違いが例とともに十分 にある。	□同一ブロックにおける varと let による変数の宣言が 2回あり違いの説明がある。 □入れ子になったブロックにおける varと let による変数の宣言がともにあり、違いの説明がある。 □入れ子になったブロックにおける varと let による内側でのブロックが終了した後の変数の値の違いの説明がある。	□同一ブロックにおける var と let による変数の宣言が 2 回ないか、違いの説明が ないか間違っている。 □入れ子になったブロックに おける var と let による変数の宣言がないか、違いの 説明がないか間違っている。 □入れ子になったブロックに おける var と let による内側でのブロックが終了した後の変数の値の違いの説明がないか間違っている。	リ説図考
課題 1-2 (10%)	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルを作成している。 □作成した関数をコンソールから動作を十分にチェックしていて考察が正しい。	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルを作成していが、変更する部分が少し足りない。 □作成した関数のコンソールからのチェックが少し足りないか考察が不十分である。	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルの作成が足りない。 □定義した関数内で仮引数を変更する部分が足りない。 □作成した関数のコンソールからのチェックが足りない。 □考察が不十分である。	リ説図考
課題 1-3 (10%)	□他の言語と変数の宣言の比較が十分なされている。 □他の言語と変数のスコープルールの比較が十分なされている。 □他の言語と関数のスコープルールの比較が十分なされている。	□他の言語と変数の宣言の比較が var と let でともになされていない。 □他の言語と変数のスコープルールの比較が var と letでともになされていない。 □他の言語と関数のスコープルールの比較がローカルとグローバルの一方でしかなされていない。 □同一関数名の定義ができるかどうかの説明が不十分である。。	□他の言語と変数の宣言の比較がないか、不十分である。 □他の言語と変数のスコープルールの比較がない。 □他の言語と関数のスコープルールの比較がない。 □同一関数名の定義ができるかどうかの項目がない。	説考

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
課題 2-1 (10%)	□アニメーションの途中でコンソールから変数の内容を console.log()を用いて出力している。 □ブロックレベルが異なる変数をチェックしている。 □関数についてもチェックしている。	□アニメーションの終了後に コンソールから変数の内容 を console.log() を用い て出力している。 □ブロックレベルが異なる変 数をチェックしている。 □関数についてチェックして いない。	□コンソールから変数の内容を console.log()を用いて出力している。 □ブロックレベルが異なる変数をチェックしている。 □図がアニメーションが途中になっていないか、途中であることがわからない。	説図考
課題 2-2 2-3 (10%)	□グローバル変数減少の利点について十分な説明がある。 □即時実行関数の利点について十分な説明がある。 □グローバル変数減少の方法に関して他の言語との比較がある。	□グローバル変数減少の利点の開発側からの視点がある。 □グローバル変数減少の利点のライブラリー利用者側からの視点がある。 □即時実行関数の利点について十分な説明がある。 □グローバル変数減少の方法に関して他の言語との比較がない。	□グローバル変数減少の利点の開発側からの視点がない。 □グローバル変数減少の利点のライブラリー利用者側からの視点がない。	説考
課題 2-4 (10%)	□今までの課題でグローバル 変数をすべてなくしたもの に書き直している。 □書き直しの方針について十 分な説明がある。	□今までの課題でグローバル 変数をほとんどなくしたも のに書き直している。 □書き直しの方針について説 明がある。	□今までの課題でグローバル 変数をなくしかたが不十分 であるか、全くしていない。 □書き直しの方針について説 明がない。	リ説図考
課題 3-1 (10%)	□配列のメソッドを的確に用いて2つのプログラムを作成している。 □いろいろな場合について作成したプログラムをチェックしている。	□map()を用いて5で割った 余りの配列を正しく作成し ている。 □filter()を用いて奇数で ある要素を選び出している。 □処理される配列がチェック にふさわしい。	□map()なしで5で割った余 りの配列を作成している。 □filter()なしで奇数であ る要素を選び出している。 □処理される配列がチェック にふさわしくない。	説考
課題 3-2 (10%)	□配列のメソッドを利用する ものと利用しないものを正 しく作成している。 □利用している配列のメソッ ドの種類が十分にある。 □配列のメソッドを利用する 場合としない場合の違いを 比較検討している。	□配列のメソッドを利用するものと利用しないものを作成している。□利用している配列のメソッドの種類が2つしかない。□配列のメソッドを利用する場合としない場合の比較検討が少し不十分である。	□配列のメソッドを利用する ものと利用しないものを作 成していないか、利用の仕 方が間違っている。 □利用している配列のメソッ ドの種類が1つ以下である。 □配列のメソッドを利用する 場合としない場合の比較検 討がないか不十分である。	説考
課題 3-3 (10%)	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドですべて書き直している。□書き直しの方針について十分な説明がある。	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドでほとんど書き直している。 □書き直しの方針について十分な説明がある。	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドでの書き直しが不十分であるかほとんどしていない。 □書き直しの方針について十分な説明がない。	リ説図考

情報メディア専門ユニット I(演習) 第7回(6/6) プレゼンテーション

この回の予習に基づいてグループ内で議論したことや工夫した点について報告する。

グループメンバー学籍番号

評価 項目	優れている	改良の余地あり
発表 技法 (20%)	□はっきりと丁寧に説明していた。 □発表の際に聴衆の反応を確かめていた。 □間の取り方がよかった。 □決められた時間に近い範囲で行った。 □機材の設定や準備がすぐできた。	□説明が途切れた。 □声が少し大きすぎたか小さすぎた。 □発表の際に聴衆の方をあまり見ていない。 □決められた発表時間が長いまたは短い。 □手元の資料や PC 画面を見て発表していた。 □機材の設定や準備に時間がかかった。
発表 構成 (30%)	□初めに発表内容に関する概要があった。 □発表内容の順序がよい。 □各構成の部分のバランスが良かった。 □図や表を使い簡潔にまとめられていた。 □引用は適切である。	□文字だけの発表であった。□図が見づらい。□項目の内容の分量にばらつきがあった。□スライドごとに情報の詳しさが異なりすぎた。□ページの分量が発表時間に対して少し足りない、または多い。
発表 内容 (50%)	□内容に間違いがなかった。 □図の使い方がよかった。 □S デモが適切である。 □内容が自分の言葉で述べられていた。 □それぞれの項目の関連性とバランスがよかった。 □発表したいことが十分に説明されていた。 □自分の意見が明確であった。	□内容の説明不足なところがある。 □図が少なくて説明がわかりずらい。 □実際のデモのがない、または少ない。 □内容に関して独自性がない。 □それぞれの項目の関連性が不十分である。 □発表内容の必要性の説明が足りない。